

COVID-19流行下における補剤の奏効例

ミディ漢方医院福岡(福岡県) 石束 麻里子

内傷病と診断して補中益気湯に甘草末を加味した症例、不安感を脈診で察し人参養栄湯単独で挑んだフレイル症例について報告する。

Keywords 内傷病、甘温除大熱、補中益気湯、フレイル、関前短脈、人参養栄湯

緒言

現在もなお、収束の兆しが見えないCOVID-19。福岡県は4月初旬に感染者が急増し、4月7日緊急事態宣言発令対象の7都府県に含まれた。当院では2月から風邪や不安感、不眠症状の患者が例年より増加し、通常診療にオンライン受診や電話受診を取り入れて対応している。今回、心身の不調に対する補剤の貴重な症例を経験したため報告する。

症例1

46歳男性 身長：171cm 体重：55kg 職業：郵便局での仕分け作業

【主訴】寝汗がひどい、悪寒のあとの発熱、眠れない

【現病歴】X-1年5月より通院歴があり、虚弱体質を治したいとのことで、四君子湯や補中益気湯のエキス剤にて経過が良好だった。X年2月初旬より仕事が激務となり、下痢、午前4時に目覚めてから寝付けないとのことで補中益気湯を再び処方。2週間後来院時の自覚症状として、中途覚醒の継続、寝汗が酷く目が覚める、悪寒の後37度台の発熱、浮遊感があり、風邪と思い手持ちの柴胡桂枝湯を服用したが無効だった。

【望診】肌色が萎黄、眼勢無力

【舌診】舌質紅、腎部～脾部に白厚苔

【聞診】声が小さい

【脈診】浮散大按じて無力

【腹診】腹壁軟弱、臍上悸をひどく触れる

【初診時処方と養生指導】補中益気湯エキス7.5g+甘草末1gを10日分処方、無理をせずなるべく休息を取るよう指導。

【治療経過】3日後に悪寒後の発熱や寝汗が完全に止まったと連絡があり。2診察目、午前6時まで覚醒しなくなったため甘草末を中止。下痢ではないが軟便が続くとのことで柴芍六君子湯加減の煎じ薬にて改善し治療終了となった。

症例2

81歳男性 身長：168cm 体重：56kg 職業：清掃業
【主訴】風邪をひきやすい、疲れやすい、冷え性の体質、不眠を治したい。

【現病歴】X年4月上記主訴にて来院。月に3回は頭痛、軽い咳、鼻汁などの風邪症状が出る。膝下から足先の冷への自覚、22時から5時までに3～4回覚醒する。夜間尿3回。

【望診】肌色が萎黄無沢、前頭部～頭頂部の毛髪脱落

【舌診】舌質暗淡紅、脾部細かい裂紋、腎部～脾部に白厚苔

【聞診】口数が少なく、声が弱々しい

【脈診】沈軟濡、左右関前短脈あり(特に左に著明)

【腹診】腹壁軟、心下虚冷、臍上悸、臍下不仁

【初診時処方と養生指導】人参養栄湯エキス5gを3週間分処方。風邪初期症状時に参蘇飲エキスを予備薬として処方。場所を選んで散歩をするように指導。

【治療経過】2診察目、何回か参蘇飲を使いすぐに風邪症状は治った。散歩は6,000歩。胃腸の調子が良い。心下虚冷や左短脈の改善があるため人参養栄湯エキス5gを4週間分処方。3診察目、元気が出ている実感があり。風邪をひいていない。人参養栄湯エキス2.5g～5g処方を4ヵ月間継続。冷えを感じない。中途覚醒が1～2回に減り、睡眠の質の改善を自覚されている。認知機能と生存率に関連する赤血球、ヘモグロビン、総コレステロール、HDLコレステロール、アルブミン、握力の推移を表1に示す。全ての項目で増加を認めた。

表1 握力、血液検査データの推移

	X年1月	X年4月	X年8月
RBC($\times 10^4/\mu\text{L}$)	420	—	457
Hb(g/dL)	13.7	—	14.4
総コレステロール(mg/dL)	172	—	184
HDLコレステロール(mg/dL)	44	—	49
Alb(g/dL)	3.7	—	4.4
握力(kg)	—	右：37.1 左：26.4	右：39.1 左：30

考察

症例1に用いた補中益気湯の出典は李東垣の『内外傷弁惑論』、『脾胃論』で、効能は益気昇陽、甘温除大熱、益気健脾である。原典では「黄耆5分～1錢(1.85g～3.7g)、甘草5分(1.85g)、人參・升麻・柴胡・当帰各3分(1.11g)」と黄耆の次に甘草の量が多く、現在のエキス製剤の組成とは大きく異なっており、甘温除大熱の効能が強くなっている。「中途覚醒(睡眠の質の変化)、悪寒の後37度台の発熱」は、COVID-19感染疑いとして考えられる症状でもあり、補中益気湯エキス単独や柴胡桂枝湯が無効だったこと、四診から津田玄仙の8証(表2)¹⁾内傷病と判断し、補中益気湯エキスに甘草末を加味して甘温除大熱(図1)¹⁾の効能を高めた処方にするると速やかに症状が消失した。「寝汗」は李東垣の言う「心火(陰火)」による腎陰の消耗症状と推測した。「心火」を瀉し腎陰を補うために地黄や知母、黄柏などの加味も考慮したが、今回は甘草のみで改善できた。現代薬理学的にはグリチルリチンがSARS関連コロナウイルスに効果がある報告もあるため²⁾、COVID-19に対しても、甘草が重要な働きを担えるのではないかと考えている。

症例2の患者は痩せ型(BMI19.8)、疲れやすい、COVID-19の感染防止のため外出自粛していること(活動量の低下)によりフレイルと診断した。また、初診時に関前短脈³⁾が目立っていたことから、不安感が強いことを察した。胆気虚による不安感の対応としては酸棗仁+茯苓を基本骨格とする処方(図2)⁴⁾、例えば酸棗仁湯や帰脾湯類がエキス剤では候補となるが、患者は気血両虚、特に腎虚が目立っていたため、腎へも帰経する地黄や遠志、五味子が入った人參養榮湯を選択した。五味子は酸棗仁に比べると酸味が強く、量の調節が必要ではあるが、酸棗仁の代用として試みた。また、遠志+陳皮の化痰開竅作用、四物湯去川芎加桂皮により心腎を交通させ、四君子湯加黄耆の補気作用で「寝続ける力」をつけることにより睡眠の質の改善ができたと考えている。

人參養榮湯には抑うつ症状や不安感の改善効果があり⁵⁾、

表2 津田玄仙 補中益気湯8証(百方口訣集)

第一	手足倦怠
第二	言語軽微
第三	眼勢無力
第四	口中に白沫
第五	食に滋味を失す
第六	口に熱湯を好む…太陽病との鑑別
第七	臍に動気…腎虚水犯土
第八	脈は散・大・無力…太陽病との鑑別

特に、陳皮とその活性成分ヘスペリジンやヘスペレチンがSSRIと同様に抗不安作用を示した報告もある⁶⁾。人參養榮湯は、安神作用のある補剤として「コロナフレイル」への一手となり、また生脈散加減で止咳化痰作用があるため、COVID-19感染後の消耗性病態にも対応可能と考える。更なる可能性に期待したい。

図1 “甘温除大熱法”

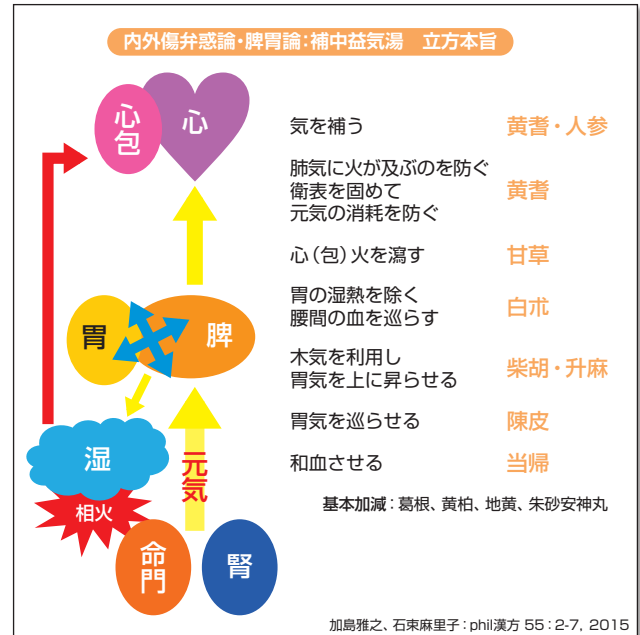
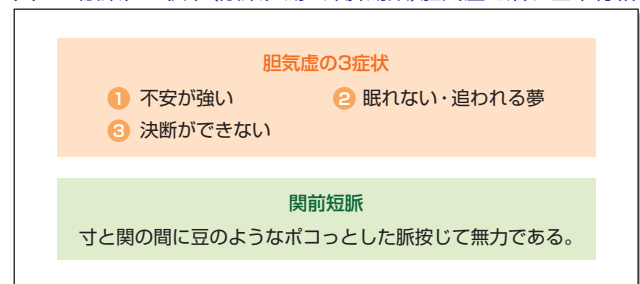


図2 酸棗仁+茯苓(酸棗仁湯、帰脾湯類)胆気虚を治す基本骨格



【参考文献】

- 加島雅之、石東麻里子：特別対談「補中益気湯の古典に基づいた医学適応と現代臨床応用について」. phil漢方 55: 2-7, 2015
- Cinatl J, et al.: Glycyrrhizin, an active component of licorice roots, and replication of SARS-associated coronavirus. Lancet 361: 2045-2046, 2003
- 江部洋一郎：胆気不足の考察と症例. THE KAMPO 51: 9 (3), 1991
- 高野義章、石東麻里子：漢方医と鍼灸師の連携で胆気不足による不安感に挑む. 医道の日本 74 (9), 2015
- Hirai K, et al.: Usefulness of Ninjin'yoeito for Chronic Obstructive Pulmonary Disease Patients with Frailty. J Altern Complement Med 2020 Jun 17 doi: 10. 1089/acm. 2020. 0083
- Ito A, et al.: Antianxiety-Like Effects of Chimpin (Dried Citrus Peels) in the Elevated Open-Platform Test. Molecules 18: 10014-10023, 2013